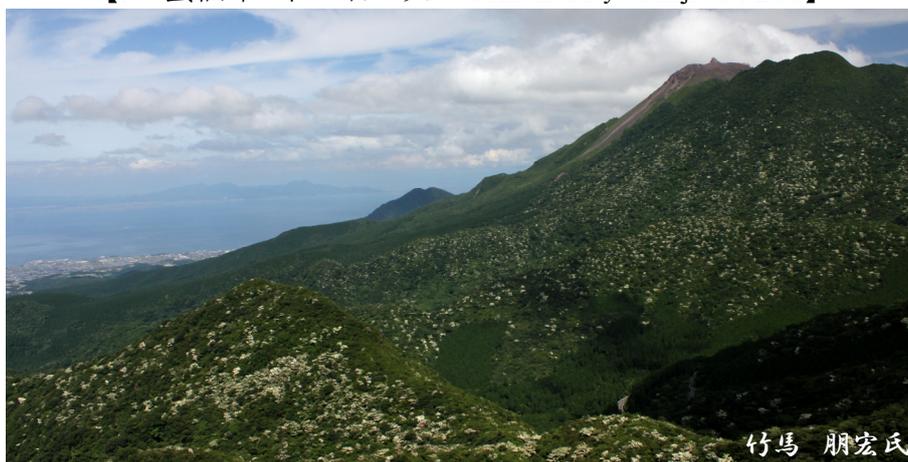


【N 雲仙市-千々石エリア Unzen City-Chijiwa Area】



竹馬 朋宏氏

九千部岳山頂付近から(ヤマボウシ群落)

雲仙市-千々石(ちぢわ)エリアでは、“北西面の雲仙岳”が眺望できます。小中学校の校歌には雲仙岳が登場し、地域で古くから親しまれてきたことが分かります。雲仙岳の山岳信仰が盛んであった往時をしのばせるものとして、温泉神社の分社の千々石温泉神社が現存しており、雲仙地獄にある本宮からいち早く分社された4分社の一つとされています(祭神の温泉四面神が朝鮮半島北部の高句麗から飛来して初めに降り立った地が当エリアと伝承されています)。山並みとしては、鉢巻山・吾妻岳～九千部岳・国見岳(・平成新山)・妙見岳～野岳～猿葉山の並びで多くの山々が見えますが、相対的に目立つのは吾妻岳～九千部岳のセットと猿葉山です。

吾妻岳と九千部岳の間には、独特な J 字状の谷地形が見えますが(↓)、これが島原半島北部を東西に横断する“千々石断層”で、高低差最大 450m にも達します。J 字状の底の平地は田代原(たしろばる)高原と呼ばれ、放牧草原が広がっています。九千部岳には、雲仙岳の化身とされる巨人“みそ五郎”にまつわる伝説があり、この断層地形を作りだす民話が伝わっています。毎年6月には、九千部岳山頂からヤマボウシ群落の一斉開花が見られます(↑)。他方、猿葉山は、雲仙岳西端の溶岩ドームで、山上部に猿場神社があるほか、千々石少年自然の家が建てられています。猿葉山から田代原高原へは、九州自然歩道(九州を一周する歩道)を歩いて行くことができます。

中世の時代、島原領主の有馬晴信はキリシタン大名となり、日野江城下に有馬セナリヨを創設して、第一期生の4名の少年を“天正遣欧少年使節”としてローマに派遣しましたが、その一人が当エリア出身の千々石ミゲルで、有馬晴信の従兄弟でした。江戸時代初期の“島原・天草一揆”の際には、当時の千々石村の村民の約4割が一揆に参加したとされています。

雲仙岳の様々な表情を探しながら、千々石エリアを旅してみませんか？

●千々石エリアの観光情報はこちら↓

雲仙市観光物産課(ガイドブック) http://www.city.unzen.nagasaki.jp/info/prev.asp?fol_id=10176



千々石展望所から(北西から)



日本の棚田百選に選ばれた清水(岳)棚田から



水田に映った田面の猿葉山